

# 家族のつながりも伝えたい

司会 在宅医療や在宅介護について、町長の思いを語ってください

町長 今年の町の大きなテーマの一つとして、在宅医療と在宅介護の仕組みづくりの検証をあげています。町内の各機関でどのような連携を取れば実現できるのかを、考えたいと思います。昔は、家で家族が看るのが普通でした。しかし最近では病院や施設が中心となり、家庭や地域で支える力が弱くなってきているようです。核家族化が進み家庭の中もお年寄りがいなくて、お年寄りを大切に思う気持ちが育たなくなってきた

ではないでしょうか。地域の中でも、子どもや高齢者を見る目が他人事のようになりつつあるように思います。

ある高齢者の会で「最後はどこで迎えたいですか？」と尋ねたら、「自分の家」とほとんどの人が答えました。しかし、実際には自宅で最期を迎える人は少ないです。介護保険が始まったから、介護が必要になった人は施設入所が当たり前になってきました。家族で介護したり家族で看取することを通して、子どもたちに命の大切さや家族の大切さを伝えることにもつながるのでは、というのが私の思いです。



山口隆之町長

# 在宅医療・介護の現状は

司会 在宅での医療や介護の現状はどうでしょうか

久野 大山口診療所では、年間10数人看取りもしています。最近では特別養護老人ホームで看取することもあります。

現在の制度は、終末期でも病院が長くみてくれない現状です。これからは、在宅が増えてくるでしょう。在宅医療とは看取りができるシステムです。

看取りに持つていくにはかかりつけ医が必要です。かかりつけ医の条件として、24時間体制で往診できるかターミナルケア（\*）ができるか、尊厳死について理解があるか、などがあります。

また、家族自身の考え、在宅の希望、特に訪問看護などの介護サービスの充実などの条件を、一つひとつクリアしていく必要があります。いろいろな条件が整わなければ難しいですが、ターミナルケアの場合は、たとえ1カ月でも家族がみれば達成感もあります。

す。

山脇 名和診療所の現状ですが、訪問診療については数例あります。地域医療を支えるためには、介護サービスの情報が必要となってくると思います。そして、介護を継続するために、家族に介護評価を示すことも大切です。つまり、家族の介護をきちんと評価して、よかつたことを褒めて、認めてあげることなどが必要です。終末期では、患者が受けている介護の状況や家族の状況を訪問看護で確認し、病状が悪くなったときや希望があるときには、すぐ受け入れてくれる病院があることが在宅につながります。

関係機関がうまく連携し、終末期の1カ月を自宅で過ごすことができた例があります。本人にも家族にも満足感があつたと思います。

\* ターミナルケア

末期がんなどに罹患した患者に対する看護のこと。終末医療、終末（期）ケアともいう。主に延命を目的とするものではなく、身体的・精神的苦痛を軽減することにより、生活の質を向上することが主眼となる。医療的処置のほか、精神的側面を重視した総合的な措置がとられる。